

(意見書案第4号)

医師・看護師等の大幅増員を求める意見書

高齢化社会を迎え、医療・介護・社会保障の充実は、地域住民と医療・介護労働者共通の切実な願いである。

しかし、医師不足により診療科を閉鎖・縮小する医療機関がふえたり、医師の過重労働等が大きな問題となっており、地域医療の確保にとって重大な支障を来している。同時に看護職員の労働実態も深刻であり、「慢性疲労」が8割、「自分の健康に不安」が7割、3人に2人は、「仕事をやめたい」と考えているほどである。慢性的な人手不足のもとで、医療事故多発など、患者・利用者の命と安全も脅かされている。また、医療と介護が密接に結びつく現状では、介護福祉士の増員も急務となっている。医療・介護現場はもはや限界である。

医師・看護師を初めとする医療・介護労働者の大幅増員は、国民の命と健康を守るために必要不可欠である。

よって、政府においては、国民の切実な願いにこたえ、安全・安心の医療・介護を実現するため、下記事項の実現を図るよう強く要望する。

記

- 1 安全で行き届いた医療・介護を保障するため、医師・看護師など医療・介護労働者を大幅に増員すること。
- 2 第6次看護師需給見通しを、看護現場での具体的労働条件の改善と増員を保障する内容とすること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成18年3月24日

釧路市議会

内閣総理大臣 } 宛
厚生労働大臣 }